

# 高等学校専門教科の情報関係基礎科目の目標と内容

中野由章<sup>†1</sup> 中山泰一<sup>†2</sup>

**概要**：大学入試センター試験において、数学②の選択科目として「情報関係基礎」が長く出題されている。これは、数学Ⅱ・Bを履修していない専門学科の生徒も大学入試で不利にならないよう配慮されたものである。高等学校2003年度入学生から学年進行で普通教科（現・共通教科）情報科が必修となったが、専門学科の生徒は専門教科の学習でそれを代替する特例措置があり、殆どの専門学科ではその特例を利用して、共通教科情報科を開設していない。そこで、現行学習指導要領における専門教科の情報関係基礎科目の目標と内容について分析し、その類型化を試みる。

**キーワード**：情報関係基礎、情報技術基礎、情報処理、高等学校専門教科、高等学校共通教科情報科

## Objects and contents of information study basics of special high school

Yoshiaki Nakano<sup>†1</sup> Yasuichi Nakayama<sup>†2</sup>

### 1. 高等学校専門教科の情報関係基礎科目

高等学校専門教科には、農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉、理数、体育、音楽、美術及び英語がある。このうち、農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報及び福祉には、それぞれの専門分野で必要とされる情報活用能力を育成するための情報に関する基礎的科目が設定されている。本稿では、これらの科目の目標と内容を分析し、その類型化を試みる。

### 2. 大学入試センター試験の「情報関係基礎」

大学入試センターでは、「数学②」の選択科目として、平成9年から「情報関係基礎」を出題している。「情報関係基礎」は、専門教育を主とする農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報及び福祉の8教科に設定されている情報に関する基礎的科目を出題範囲としている[1]。

専門教育を主とする学科（以下、専門学科）においては、普通科と異なり、専門教科を25単位以上履修することとなる。それ故、共通教科については必然的に履修単位数が減少し、数学においては、数学Ⅰや数学Aの履修にとどまり、数学Ⅱや数学Bを履修しない生徒が相当数存在する。大学入試センター試験は、大学に入学を志願する者の高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的とするものである[2]。専門学科の生徒が大学進学を志願した場合、大学教育を受けるにふさわしい能力・意欲・適性等を適正に評価・判定するために、「情報関係基礎」は必要不可欠である。

しかしながら、過去の試験における受験者数と平均点の

推移は図1のようになっていて、平均点は60点前後で安定しているものの、受験者数は平成25年度までは600人強で推移していたが、その後は500人程度に留まっている。受験者数が少ない要因としては、国公立大学の個別試験で、数学Ⅱと数学Bを課す大学が極めて多いため、センター試験でも「数学Ⅱ・B」を選択せざるを得ないことが考えられる。専門学科から大学への進学を志願する、優れた能力・意欲・適性等を備えた生徒を受け入れるために、各大学においては、個別試験においても専門学科の生徒に対する配慮をより一層行なうことが求められていると解釈することも可能である。

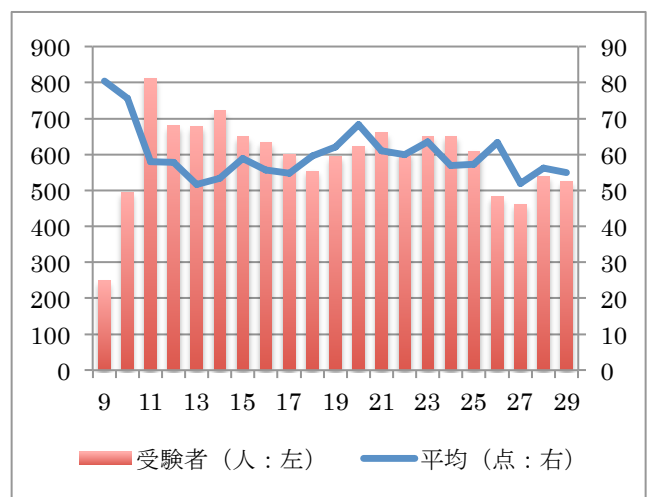


図1 「情報関係基礎」の年度別受験者数と平均点の推移

### 3. 専門教科に設定されている情報に関する基礎的科目

大学入試センター試験の「情報関係基礎」の出題根拠としている「専門教科に設定されている情報に関する基礎的科目」は表1の通りである。

1 神戸市立科学技術高等学校  
Kobe Municipal High School of Science and Technology  
2 電気通信大学  
The University of Electro-Communications

表 1 情報関係基礎科目一覧

専門教科	情報関係基礎科目
農業	農業情報処理
工業	情報技術基礎
商業	情報処理
水産	海洋情報技術
家庭	生活産業情報
看護	看護情報活用
情報	情報産業と社会
福祉	福祉情報活用

「情報関係基礎」は、例年、表 2 のように、第 1 問と第 2 問が必答、第 3 問と第 4 問がいずれか 1 問を選択して解答するという形式で行なわれている。第 1 問は情報に関する基礎的知識について、第 2 問はやや抽象度の高い情報に関する思考力について、第 3 問は DNCL というセンター試験用手順記述標準言語によるアルゴリズムとプログラムについて、第 4 問は表計算の活用について出題される傾向にある。

表 2 「情報関係基礎」の出題形式

問題	選択方法	問題の傾向
第 1 問	必答	基礎的知識を問うもの
第 2 問	必答	思考力を問うもの
第 3 問	いずれか	アルゴリズムとプログラム
第 4 問	1 問を選択	表計算活用

この出題内容は、専門教科に設定されている情報に関する基礎的科目（以下、情報関係基礎科目と略記）を履修した生徒なら対応できることになっている。

また、平成 15 年度入学生から、普通教科情報科（現、共通教科情報科、以下共通教科情報科に統一表記）が必修となった。すなわち、すべての高校生が共通教科情報科を履修しなければならず、それは専門学科においても同様である。但し、専門教科・科目の履修によって、必修教科・科目の履修と同様の成果が期待できる場合においては、その専門教科・科目の履修をもって、必修教科・科目の履修の一部又は全部に替えることができるとなっている[3]。そのため、大半の専門学科において、情報関係基礎科目（表 1）で、共通教科情報科の科目を代替している。

この場合、「専門教科に設定されている情報に関する基礎的科目の履修によって、共通教科情報科の科目の履修と同様の成果が期待できること」が保証されている必要がある。

また、前述した通り、「情報関係基礎」は、「専門教科に設定されている情報に関する基礎的科目を出題範囲」としている。

そこで、情報関係基礎科目間の目標と内容の差異に注目

し、各科目に共通する部分や特徴的な部分を検討する。

表 3 情報関係基礎科目の目標

教科	科目	目標
農業	農業情報処理	社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させ、情報に関する知識と技術を習得させるとともに、農業情報及び環境情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。
	情報技術基礎	社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、情報技術に関する知識と技術を習得させ、工業の各分野において情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を育てる。
商業	情報処理	ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術を習得させ、情報の意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。
	海洋情報技術	社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、情報機器や情報通信ネットワークに関する知識と技術を習得させ、水産や海洋の各分野で情報技術を主体的に活用する能力と態度を育てる。
家庭	生活産業情報	生活産業における情報の意義や役割を理解させ、情報の処理に関する知識と技術を習得させるとともに、生活産業の各分野で情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を育てる。
	看護情報活用	社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、情報の活用に関する知識と技術を習得させ、看護の分野で情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を育てる。
情報	情報産業と社会	情報産業と社会とのかかわりについての基礎的な知識と技術を習得させ、情報産業への興味・関心を高めるとともに、情報に関する広い視野を養い、情報産業の発展に寄与する能力と態度を育てる。
	福祉情報活用	社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、情報活用に関する知識と技術を習得させ、福祉の各分野で情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を育てる。

#### 4. 科目の目標

まず注目すべきは、科目の目標である。これを表 3 に示す。

情報関係基礎科目の履修をもって、必履修である共通教科情報科の履修に替えるためには、共通教科情報科の履修と同様の成果が期待できる必要がある。そこで、比較するために、共通教科情報科の科目の目標を表 4 に示す。

表 4 共通教科情報科の科目の目標

教科	科目	目標
共通教科情報科	社会と情報	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。
	情報の科学	情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させるとともに、情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得させ、情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる。

これらの科目の目標には、相互に整合性・親和性・共通性などがなく、情報関係基礎科目による共通教科情報科の代替履修要件を満たさないことになったり、「情報関係基

礎」の出題範囲の定義が成立しなかったりすることになる。そこで、その科目目標の差異を検討する。

表 5 に、情報関係基礎科目に加え、代替履修することができる必履修教科である共通教科情報科の科目もあわせて、その目標を「～を理解させる」「～を習得させる」「～能力と態度を育てる」などの共通のキーワードで括り出して表形式に整理した。すると、一定のパターンが浮かび上がってくる。

##### 4.1 理解させること

「情報産業と社会」を除く、すべての専門教科の情報に関する基礎的科目で「情報の意義や役割」を理解させることになっている。共通教科情報科の科目では「社会に及ぼす影響」を中心に理解させることとなっていて、それに対応すると考えられる「社会における情報化の進展」が、「情報産業と社会」「情報処理」「生活産業技術」を除き、項目にあがっている。

「情報産業と社会」には「理解させる」というキーワードがなく、情報関係基礎科目の中では特異なものとなっている。「情報処理」「生活産業技術」は、「情報の意義や役割」のみが理解させる対象となっている。

##### 4.2 習得させること

すべての情報関係基礎科目で、「知識と技術」を習得させることとなっている。これは、共通教科情報科の科目目標にはない表現であり、特徴的なものであると言える。

さらに、何に関する「知識と技術」を習得させるのか見

表 5 情報関係基礎科目と共通教科情報科の科目目標の分類

目標分類	専門教科	科目	理解させること	習得させること
社会	-	社会と情報	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響	
社会	-	情報の科学	情報社会を支える情報技術の役割や影響	情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方
社会	情報	情報産業と社会		情報産業と社会とのかかわりについての基礎的な知識と技術
技術	工業	情報技術基礎	社会における情報化の進展と情報の意義や役割	情報技術に関する知識と技術
技術	水産	海洋情報技術	社会における情報化の進展と情報の意義や役割	情報機器や情報通信ネットワークに関する知識と技術
活用	看護	看護情報活用	社会における情報化の進展と情報の意義や役割	情報の活用に関する知識と技術
活用	福祉	福祉情報活用	社会における情報化の進展と情報の意義や役割	情報活用に関する知識と技術
処理	農業	農業情報処理	社会における情報化の進展と情報の意義や役割	情報に関する知識と技術
処理	商業	情報処理	情報の意義や役割	ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術
処理	家庭	生活産業情報	生活産業における情報の意義や役割	情報の処理に関する知識と技術
目標分類	専門教科	科目	能力と態度を育てること	その他
社会	-	社会と情報	情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う/ 情報社会に積極的に参画する	
社会	-	情報の科学	情報社会の発展に主体的に寄与する	
社会	情報	情報産業と社会	情報産業の発展に寄与する	情報産業への興味・関心を高める/ 情報に関する広い視野を養う
技術	工業	情報技術基礎	工業の各分野において情報及び情報手段を主体的に活用する	
技術	水産	海洋情報技術	水産や海洋の各分野で情報技術を主体的に活用する	
活用	看護	看護情報活用	看護の各分野で情報及び情報手段を主体的に活用する	
活用	福祉	福祉情報活用	福祉の各分野で情報及び情報手段を主体的に活用する	
処理	農業	農業情報処理	農業情報及び環境情報を主体的に活用する	
処理	商業	情報処理	ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する	
処理	家庭	生活産業情報	生活産業の各分野で情報及び情報手段を主体的に活用する	

てみると、表 6 のようになる。

習得させる対象の違いは、各科目の性格の違いをよく表しており、それは科目名にも現れている。

表 6 情報関係基礎科目で習得させる対象

情報関係基礎科目	対象
情報産業と社会 (社会と情報) (情報の科学)	情報社会
情報技術基礎 海洋情報技術	情報技術
看護情報活用 福祉情報活用	情報活用
農業情報処理 情報処理 生活産業情報	情報処理

#### 4.3 能力と態度を育てること

共通教科情報科で育てる能力と態度は、「社会と情報」が「情報社会への参画」である。それに対し、「情報の科学」は、「情報社会の発展のため主体的に寄与すること」となっていて、情報社会の構築に関して、より大きな貢献が期待されている。情報関係基礎科目においては、「情報産業と社会」が情報産業の発展に寄与することを求めている、「情報の科学」との類似性が高いと言える。

「情報産業と社会」を除く情報関係基礎科目ではすべて、それぞれの分野において「主体的に活用する」能力と態度を表 7 のように求めている。ここで「情報」は information、「情報手段」は ICT と捉えるべきであろう。

表 7 情報関係基礎科目における活用対象

情報関係基礎科目	情報	情報手段
情報技術基礎 看護情報活用 福祉情報活用 生活産業情報	○	○
農業情報処理 情報処理	○	×
海洋情報技術	×	○
情報産業と社会	×	×

#### 4.4 その他

情報関係基礎科目の中で、異彩を放っているのは「情報産業と社会」であるが、「興味・関心」を高めて、「幅広い視野」を養うという、他の科目にはないものが求められている。

#### 4.5 目標による科目の分類

これら、理解させること、習得させること、能力と態度を育てること、その他で情報関係基礎科目の目標を分析してみると、表 6 と同様に「社会」「技術」「活用」「処理」という 4 つに分類できると考える。共通教科情報科の科目は 2 科目とも「社会」に分類できるので、これに近いものは「情報産業と社会」という見方ができる。

#### 5. 科目の内容

目標の他には、科目の内容についても検討してみる必要がある。

情報関係基礎科目の内容を表 8 に、共通教科情報科の科目の内容を表 9 に示す。

これらの内容を俯瞰すると「社会」「情報モラル」「情報技術要素」「活用」が浮かび上がってくる。そこで、それらを表 10 に整理する。

##### 5.1 社会

「看護情報活用」「情報処理」を除く情報関係基礎科目で、まず第 1 項に「社会」が取り上げられている。実学重視の専門教科においては、社会に及ぼす影響や役割が重視されていると捉えることができる。

##### 5.2 情報モラル

現行の高等学校学習指導要領において、教科を問わず最も重視されているものの一つであり、「情報技術基礎」を除く情報関係基礎科目において「情報モラル」が項目レベルで明記されている。また、第 2 項目に「情報モラルとセキュリティ」という形で位置づけられているのが情報関係基礎科目の標準形となっている。「セキュリティ」が項目名としてあがるのは、職業実務に直結する専門教科の科目ならではのと言える。

項目名として登場しなくても、情報モラルについては教育内容に間違いなく盛り込まれると考えるが、項目名として特筆されるということの重みについては、注目すべきである。

##### 5.3 技術

「看護情報活用」を除く全科目で技術トピックが扱われている。中でも、「情報通信ネットワーク」がその中心となっている。また、「情報技術基礎」では 6 項目中実に 4 項目、「海洋情報技術」においても 6 項目中 3 項目が技術トピックであり、技術の比重がとりわけ大きくなっている。これは、専門教科の性質上、必然的にそうなるであろう。

##### 5.4 活用

活用については、大項目が 3 つしかない「情報産業と社会」を除く全科目にある。特に「農業情報処理」「看護情報活用」「情報処理」などにおいて活用の比重が重く、「情報処理」では 5 項目中 3 項目が活用であり、極めて実学的であると言える。

共通教科情報科においては、「情報の科学」において社会

的要素を減じた分が問題解決という活用に移っている。

表 8 情報関係基礎科目の内容

教科	科目	内容
農業	農業情報処理	(1) 産業社会と情報
		(2) 情報モラルとセキュリティ
		(3) 情報技術
		(4) 農業情報及び環境情報の活用
		(5) 農業学習と情報活用
工業	情報技術基礎	(1) 産業社会と情報技術
		(2) コンピュータの基礎
		(3) コンピュータシステム
		(4) プログラミングの基礎
		(5) コンピュータ制御の基礎
		(6) 情報技術の活用
商業	情報処理	(1) 情報の活用と情報モラル
		(2) 情報通信ネットワークとセキュリティ管理
		(3) ビジネス情報の処理と分析
		(4) ビジネス文書の作成
		(5) プレゼンテーション
水産	海洋情報技術	(1) 産業社会と情報技術
		(2) 情報モラルとセキュリティ
		(3) 情報機器の仕組みと情報の表現
		(4) ソフトウェア
		(5) 情報通信ネットワーク
		(6) 水産や海洋における情報の応用
家庭	生活産業情報	(1) 情報化の進展と生活産業
		(2) 情報モラルとセキュリティ
		(3) 情報機器と情報通信ネットワーク
		(4) 生活産業における情報及び情報手段の活用
看護	看護情報活用	(1) 情報機器と情報の活用
		(2) 情報モラルとセキュリティ
		(3) 看護と情報機器の活用
情報	情報産業と社会	(1) 情報化と社会
		(2) 情報産業と情報技術
		(3) 情報産業と情報モラル
福祉	福祉情報活用	(1) 情報社会と福祉サービス
		(2) 情報モラルとセキュリティ
		(3) 情報機器と情報通信ネットワーク
		(4) 福祉サービスと情報機器の活用

表 9 共通教科情報科の科目の内容

教科	科目	内容
共通教科	社会と情報	(1) 情報の活用と表現 (2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション (3) 情報社会の課題と情報モラル (4) 望ましい情報社会の構築
	情報の科学	(1) コンピュータと情報通信ネットワーク (2) 問題解決とコンピュータの活用 (3) 情報の管理と問題解決 (4) 情報技術の進展と情報モラル

### 5.5 内容による科目の分類

このようにして見てみると、表 11 に示すように、「社会」「情報モラル」「情報技術要素」「活用」の 4 分野をバランスよく組み込んでいる「平衡」型、当該分野の実学と強く結びついた「活用」型、情報技術要素をしっかりと扱う「技術」型の 3 類型に分類できる。

共通教科情報科の「社会と情報」は、4 分野に 1 項目ずつマッピングできる平衡型であり、これと同類系と言えるのが「福祉情報活用」と「生活産業情報」である。共通教科情報科の「情報の科学」は、活用の比重が大きい活用型であり、これと同類型と見なせるのは「農業情報処理」「看護情報活用」「情報処理」の 3 科目である。「社会」と「情報モラル」は基盤的項目であり、その他に「技術」項目しか持たない「情報産業と社会」や、「技術」項目の比重が極めて大きい「情報技術基礎」と「海洋情報技術」は技術型である。

### 6. 科目の目標と内容によるマトリクス分類

このように、情報関係基礎科目はその目標で 4 つ、内容で 3 つに類型化できる。これをマトリクスで表現したものが表 12 である。

「看護情報活用」は目標も内容も「活用型」、「情報技術基礎」と「海洋情報技術」は目標も内容も「技術型」で一貫している。「農業情報処理」と「情報処理」は、「目標処理・内容活用型」と言える。尤も、目標における「活用」と「処理」は極めて近接したものであり、大きく括れば「看護情報活用」と同類の「活用型」とみなすこともできる。「情報産業と社会」は「目標社会・内容技術型」であり、これは専門教科情報科の性質とも一致している。「福祉情報活用」は「目標活用・内容平衡型」、「生活産業情報」は「目標処理・内容平衡型」であり、目標における「活用」と「処理」が近接領域であることを考えれば、ほぼ同類型であるとも言え、目標は専門教科に沿ったものになっているが、内容は共通教科情報科の「社会と情報」同様、特定の領域に比重をかけることなく広い内容を扱っている。

表 10 情報関係基礎科目と共通教科情報科の科目内容の分類

内容分類	専門教科	科目	社会	情報モラル	技術	活用
平衡	-	社会と情報	(4) 望ましい情報社会の構築	(3) 情報社会の課題と情報モラル	(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション	(1) 情報の活用と表現
活用	-	情報の科学		(4) 情報技術の進展と情報モラル	(1) コンピュータと情報通信ネットワーク	(2) 問題解決とコンピュータの活用 (3) 情報の管理と問題解決
平衡	福祉	福祉情報活用	(1) 情報社会と福祉サービス	(2) 情報モラルとセキュリティ	(3) 情報機器と情報通信ネットワーク	(4) 福祉サービスと情報機器の活用
平衡	家庭	生活産業情報	(1) 情報化の進展と生活産業	(2) 情報モラルとセキュリティ	(3) 情報機器と情報通信ネットワーク	(4) 生活産業における情報及び情報手段の活用
技術	情報	情報産業と社会	(1) 情報化と社会	(3) 情報産業と情報モラル	(2) 情報産業と情報技術	
技術	工業	情報技術基礎	(1) 産業社会と情報技術		(2) コンピュータの基礎 (3) コンピュータシステム (4) プログラミングの基礎 (5) コンピュータ制御の基礎	(6) 情報技術の活用
技術	水産	海洋情報技術	(1) 産業社会と情報技術	(2) 情報モラルとセキュリティ	(3) 情報機器の仕組みと情報の表現 (4) ソフトウェア (5) 情報通信ネットワーク	(6) 水産や海洋における情報の応用
活用	農業	農業情報処理	(1) 産業社会と情報	(2) 情報モラルとセキュリティ	(3) 情報技術	(4) 農業情報及び環境情報の活用 (5) 農業学習と情報活用
活用	看護	看護情報活用		(2) 情報モラルとセキュリティ		(1) 情報機器と情報の活用 (3) 看護と情報機器の活用
活用	商業	情報処理		(1) 情報の活用と情報モラル	(2) 情報通信ネットワークとセキュリティ管理	(3) ビジネス情報の処理と分析 (4) ビジネス文書の作成 (5) プレゼンテーション

表 11 情報関係基礎科目の内容による分類

情報関係基礎科目	対象
福祉情報活用 生活産業情報 (社会と情報)	平衡
農業情報処理 看護情報活用 情報処理 (情報の科学)	活用
情報産業と社会 情報技術基礎 海洋情報技術	技術

表 12 科目の目標と内容のマトリクス分類

内容目標	平衡	活用	技術
社会	(社会と情報)	(情報の科学)	情報産業と社会
活用	福祉情報活用	看護情報活用	
処理	生活産業情報	農業情報処理 情報処理	
技術			情報技術基礎 海洋情報技術

## 7. まとめ

情報関係基礎科目の目標と内容から、その分析を試みた。その結果、次のような類型化を行なうことができる。

- 「情報産業と社会」の目標は、共通教科情報科と同類の社会型

- 「福祉情報活用」「生活産業技術」の内容は、「社会と情報」と同類の平衡型

- 「看護情報活用」「農業情報処理」「情報処理」の内容は、「情報の科学」と同類の活用型

- 「情報技術基礎」「海洋情報技術」は目標も内容も技術型  
表 12 で見れば、マトリクスの右方向・下方向ほど、専門教科として共通教科情報科との差別化が充進すると言える。このように、情報関係基礎科目と一括りにされる各科目には、情報活用能力を育成するという共通したゴールがあるものの、目標や内容にはそれぞれ特色があり、その点を活かした教育が行なわれるべきである。

大学入試センター試験の「情報関係基礎」の試験内容は、処理や技術に関するものが中心になっている。このことは、今まで論じてきた情報関係基礎科目の目標や内容に照らして、妥当であると言える。一方、専門教科の領域における実学的な活用についてはほとんど出題されておらず、この点については改善の余地があると考えられる。寧ろ、共通教科情報科の試験化を目指すということであれば、「社会」や「活用」も含めて、広くバランスした内容とするべきである。

共通教科情報科の科目代替としては、表 12 を見てもわかる通り「情報技術基礎」と「海洋情報技術」については、共通教科情報科との乖離が大きい。この点については、共通教科情報科の教科目標と、専門教科としての目標のトレードオフを考慮して取り扱う必要があるものの、表 5 の科目目標や表 10 の科目内容を吟味すると、情報関係基礎科目の履修をもって共通教科を履修することの代替とすることの妥当性を欠くとまでは言えないだろう。

現状の情報関係基礎科目は、専門教科としての特徴を失うことなく、それを活かした内容となっていて、情報関係

基礎科目として妥当であると結論付けることができる。

専門教科を学ぶ生徒も、共通教科情報科と共通する目的を達成する必要がある。しかし、それだけでなく、専門教科に密接に関連し、その分野における学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力を身につけることが重要である。現行学習指導要領における情報関係基礎科目はその点において、バランスの取れたものであると言えるが、専門分野において求められる高度で深い学びの基盤として、各教科の特性に依拠した高度な内容のものに発展させていくべきだと考える。

## 参考文献

- 1 “平成 29 年度大学入試センター試験出題教科・科目の出題方法等”. [http://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00004981.pdf&n=平成 29 年度大学入試センター試験出題教科・科目の出題方法等.pdf](http://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00004981.pdf&n=平成29年度大学入試センター試験出題教科・科目の出題方法等.pdf), (参照 2017-05-20).
- 2 “平成 29 年度大学入学者選抜 大学入試センター試験実施要項”. [http://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00007185.pdf&n=平成 29 年度大学入学者選抜大学入試センター試験実施要項.pdf](http://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00007185.pdf&n=平成29年度大学入学者選抜大学入試センター試験実施要項.pdf), (参照 2017-05-20).
- 3 “高等学校学習指導要領”. [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2011/03/30/1304427\\_002.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/03/30/1304427_002.pdf), (参照 2017-05-20).